



1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに



東ティモールの山上にある小学校にて。コオロギ養殖を学校菜園で行ってほしいと言ってくれた校長先生と子どもたち。右から3人目が西本さん。

おいしくて栄養のあるコオロギを世界中に

世界人口は2050年には90億人を突破するといわれ、その手前の30年にはタンパク質危機が起こり、需要が供給を上回ってしまうと予想されています。

訪問したウガンダでは肉が高価で、小学校の給食では1か月に1回しか出せない状況でした。カンボジアでは多様な動植物の宝庫でもある熱帯雨林の伐採の現状と、そのために立ち退きを迫られる住民の姿を見ました。

私たちは、そのような途上国における栄養問題や、途上国の資源への依存を解決するために、一般の家畜と比べて温室効果ガス排出量や、必要な水やエサの量が格段に少なく環境負荷が低い昆虫の養殖事業をスタートさせました。

昆虫の中でも、私たちが注目したのはが食用コオロギです。コオロギを選んだのには次のような三つの理由があります。

- ① 季節を問わず一年中生産ができる。
- ② 人間に必要な栄養素をバランスよく含む。
- ③ コオロギは雑食であるため農業残渣や食料廃棄物を再利用できる。

Bug Mo (バグモ) では、コオロギの養殖からそのうまみを生かした加工食品の商品開発までを行っています。また東南アジアの国々を訪問し、養殖を行いながら途上国でも安定して生産できるような機械化、自動化についても開発を進めています。

私たちは今後も昆虫養殖を通じて、先進国、途上国を問わず、誰もがおいしくて新鮮なタンパク質を地産地消できる世界を目指していきます。

*農業生産で発生した稲わらやもみ殻、野菜くずなどの残。

今月の投稿(文と写真) 西本楓さん

ウガンダの小学校でのインターシップをきっかけに既存の畜産システムに問題意識を持つ。昆虫が好きなことからコオロギという新たなタンパク源に注目し、Bug Moを創業。食材としてのコオロギを追求しながら、おいしい、ユニオン(解決法)の価値輸出を目指す。Bug Mo共同創業者&COO(最高執行責任者)。

あなたの投稿をお待ちしています!

「わたくしが見つけたSDGs」に写真と文章をお寄せください。貧困や気候変動、格差ほか、いま世界が直面している課題やその解決に向けた取り組みのエピソードなど、SDGsの17の目標を身近に感じられる作品をお寄せください。

応募要項:写真1点(ご自身が撮影されたもの)、文字原稿400字以内。
*写真内の被写体に関する肖像権およびその他の権利は、投稿者の責任において被写体や権利保持者の承諾を得るなど必要な措置をとったうえでご応募ください。

ご応募・お問い合わせ先▶ML_JICAPR@jica.go.jp(「mundi」編集部宛て)



SDGsとは

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は「誰一人取り残さない」をスローガンに、格差や貧困、環境破壊など世界が直面している問題の根本的な解決を目指す17分野の国際目標。

持続可能な開発目標(SDGs)と
JICAの取り組み

